

教育相談部

部長：多田羅 明子

副部長：今澤 真子

(1) 今年度の目標

- ①生徒の実態を把握し、問題を抱える生徒に適切な対応を図る。
- ②関係職員、保護者、専門機関が共通理解のもとに連携をとる。
- ③研修活動を充実する。

(2) 主な取り組みの計画

- ①生徒の実態を把握する。
 - ア 心理検査を実施する。
 - イ スクールカウンセラーを指導者とするHRを実施する。
 - ウ グループカウンセリングを実施する。
 - エ 保健室利用生徒から、心に問題を抱える生徒を把握する。
 - オ 学級連絡票を活用する。
- ②連携をとる。
 - ア スクールカウンセラーと関係職員との連携を密にする。
 - イ 特別支援教育委員会との協働を図る。
 - ウ スクールカウンセラーや専門機関と連携をはかり、適切な支援を行う。
- ③研修会を設ける。
 - ア 生徒に対するメンタル研修を実施する。
 - イ 現職教育を実施する。

(3) 成 果

- ①ア 4月 「シグマ検査」（1年生対象）を実施した。
[成果]入学後の生徒が、高校生活に順応できているかを把握できた。
- イ 5月～9月HR時 「教育相談に関するHR」（1年各クラス対象）を実施した。 指
導者 スクールカウンセラー
[成果]専門家の目をとoshi、教室内の生徒の実態を把握できた。
- ウ 4月 グループカウンセリング（1年生対象）を実施した。
指導者 教育相談部員
[成果]入学後すぐの様子を知り、人間関係を築けるように援助できた。
- エ 通年 養護教諭と連携を取った。
[成果]身体の不調を訴えることから、心の不調を抱える生徒を把握できた。
- オ 通年 「学級連絡票」（月1回学級担任記入）
学年担当教育相談部員とおして、クラスの実態を把握した。
[成果]学級担任から見た生徒の様子や変化を把握できた。
- ②ア 各事例について、スクールカウンセラーを助言者として、学年主任・学級担任・部活動
顧問等関係職員と検討会を必要に応じておこなった。
[成果]それぞれの立場から生徒の情報を伝え、スクールカウンセラーの助言のもと対策
を相談できた。
- イ 生徒連絡会、ケース会との協働をおこなった。
[成果]校内のそれぞれの立場における目で困難を抱える生徒を拾い上げ、情報を交換し、

検討することができた。

ウ 病院を訪問し、担当医師より助言を受けた。

[成果]医師よりアドバイスを受け、適切な対応をとることができた。

③ア 10月 保健部と協働し、保健HRをとoshi、3年生対象にメンタル研修を実施した。

指導者 スクールカウンセラー

[成果]生徒が自分自身でストレスを軽減する方法を知ることができた。

イ 2月 「教育相談現職教育」（職員対象）を実施した。

[成果]スクールカウンセラーから見える丸高生の様子を知り、適切な対応を学ぶことができた。

（4）課題と次年度以降の改善策

学校に不適応な状態になっている生徒の状況は、個々に異なる。個々への適切な支援が難しい。
また、精神科への通院、服薬が、他の病気と同様にあたりまえのこととなってきたので、医師の診断が学校の対応に大きな役割を担う。

学校、家庭、専門機関における役割を活かし、協働する必要性がいつそう大切になっている。